

消費税について思うこと

小樽市立菁園中学校 2年

西 菜々美

みなさんは、このような経験をしたことがあるだろうか。今、千円札一枚を
持っている。すると、買いたいものが九百九十八円で売られている。ラッキー、と
思ったら、それは税抜価格だった、というものだ。

今の時代、十円ガムが実質十一円ガムだったり、百円均一が実質百十円だっ
たりする。さらに、近い将来、消費税が十パーセントから十五パーセントに上が
るかもしれないらしい。

「消費税がなくなればよいのに」と思ったことが一回ぐらいはあるだろう。し
かし、消費税がなくなると、様々なことに使われる国の収入が大きく減ってし
まうのだ。財務省のホームページによると、一般会計歳入の令和五年度当初予
算は百十四兆三千八百十二億で、そのうち、消費税による歳入は二十三兆四千
億円である。なんと、消費税は、歳入の約二十・四パーセントを占めているのだ。

これらが全てなくなると、今までのような生活をおくることが難しくなるだろ
う。なぜなら、今までの生活は、税金によって支えられていたからだ。

例えば、あたり前のように通っている学校だ。もし、税金がなかったら、先生
の給料は税金でまかなわれているので、先生が学校に来なくなってしまう。つま
り、勉強を教えてくれる人がいなくなってしまうのだ。仮に先生が来たとしても、
塾のように、授業料を払わなければいけないだろう。それだけではなく、
教科書を自分で買うことになったり、学校のものが壊れたとしても、修理や交
換をしてもらえなくなってしまうりする。その上、学校に限らず、警察官がい
なくなったり、信号や道路標式が整備されなくなったりと、とてつもない影響が
出る。

「このように、日々の生活は、税金があるからこそ、成立している。もしかした
ら、自分や自分の親が納めている税金以上に、税金に支えられているのかもしれ
ない。今回は、消費税がなくなると、今までのような生活をおくることが難し
くなるといったが、他の税金にも同じことがいえる。一つでもかけるといけない
のだ。税金に感謝し、これからの生活を現状維持、または、よりよくするために
も、税金が絶対に必要だと私は思う。」